

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 1 区分

【発行日】平成 19 年 8 月 9 日 (2007.8.9)

【公表番号】特表 2007-510401(P2007-510401A)

【公表日】平成 19 年 4 月 26 日 (2007.4.26)

【年通号数】公開・登録公報 2007-016

【出願番号】特願 2006-534123(P2006-534123)

【国際特許分類】

C 1 2 Q 1/68 (2006.01)

C 1 2 N 15/09 (2006.01)

C 0 7 H 19/04 (2006.01)

【F I】

C 1 2 Q 1/68 Z N A A

C 1 2 N 15/00 A

C 0 7 H 19/04

【手続補正書】

【提出日】平成 19 年 6 月 13 日 (2007.6.13)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 7 7

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 7 7】

本発明において使用するための最も好ましい普遍的な塩基としては、ポリマー骨格上の 2 位に共有結合した非置換および置換ピラゾロピリミジン、より特定的には、グアニンアナログ 6 - アミノ - 1 H - ピラゾロ [3 , 4 - d] ピリミジン - 4 (5 H) - オン (4 0)、アデニンアナログ 4 - アミノ - 1 H - ピラゾロ [3 , 4 - d] ピリミジン (3 8) および 2 H - イソキノリン - 1 - オン (2 5)、6 - メチル - 2 - イソキノリン - 1 - オン (4 1) および 8 - メチル - 2 - イソキノリン - 1 - オン (4 2)、6 , 8 - ジメチルイソキノリン - 1 (2 H) - オン (4 8) が挙げられる。塩基アナログは、オリゴヌクレオチド中に存在する場合、ミスマッチ識別および特定の遺伝子型特定を改良する。天然に存在する塩基、改変塩基および塩基アナログの全ての互変異性体形態は、本発明のオリゴヌクレオチド結合体中に含まれてもよい。本発明において有用な他の普遍的な塩基としては、表 1 に列挙される化合物が挙げられる。